

令和3年度和歌山県立那賀高等学校第3回学校運営協議会議事録

- 1 日 時 令和4年2月17日(木) 15:00～16:00
- 2 会 場 那賀高等学校 応接室
- 3 出席者 岸田正幸 福山晴美 細田能成 西岡かおり 森 勝博
- 4 傍聴者 村崎隆志 坂上裕昭 小山哲司 古谷直輝 東芝 稔
- 5 議事録

(1) 開 会

(2) 校長あいさつ

近況報告及び委員への出席に対するお礼

(3) 協議題

議 長 岸田正幸(会長)

ア 1年間のまとめ

【校長から説明】

学校評価シートをもとに説明。

コロナ禍の中で学校行事が中止または延期とすることが多かったこともあり、授業時数は例年の平均より各学年とも上回り、教育内容については例年通り行うことができた。9月上旬の分散登校時には、1人1台パソコンを活用してリモート授業を取り入れ、自宅の生徒にも上手く対応することができた。2年生を対象に10月末にはパネルディスカッションを実施した。岸田会長に「メタ認知」をテーマとして講師をしていただき生徒達にはとても好評で意味のある事業となった。また、11月初旬の仁坂知事による講演においては、3年生は体育館で、1・2年生は教室からリモートで参加し、とても有意義な事業をすることができた。

進学状況は、現在も受験中の生徒がいる状況であるため確定はしていない。

各学年とも担任会を年間20回以上実施しすることができた。管理職と学年主任で会議を適宜行ったことを担任会で伝達することも、学校運営をスムーズに行うことに繋がった。

分掌等の組織改革については、働き方改革との兼ね合いも考慮しながら、部活動の統合など縮小することも視野に入れて検討していく。ただし、顧問や部員の意向を十分に聞きながら進めていく。コロナ禍の中で、文化部・運動部ともにその影響を受けながらも「全国高等学校総合文化祭の国わかやま総文2021」を成功させることができ、陸上部・バドミントン部・ハンドボール部が全国大会にするなどの活躍をしてくれた。

【意見】

ア 1年間のまとめ

- ・平均より授業数が増加した理由は、行事が無くなったことによる皮肉な結果である。学校行事が那賀高校の1つの柱となっているため、工夫をしながらでも実施できるようにしていく必要がある。
- ・現在の2年生が在校中に何も無かったということにならないような配慮が必要である。
- ・小さくても良いので何か思い出を作らせてあげたい。



- ・ 前回の運営協議会の資料から見ると中止や延期ばかりで、仕方は無いが那賀高校の良さが発揮できていない。パネルディスカッションの事業は生徒の意見からも好評であったことが伺える。
- ・ 教員も振り返ることが必要である。
- ・ 指定校推薦で進路を決定する生徒が増加の傾向にある。年内に安全なところを受検し進路を決定する傾向にあり、共通試験を受けて大学に行こうとする生徒が減少している。しかし、国公立大学の合格人数は減少していない。コロナ禍になってから看護・医療系や教育系が増加傾向にある。
- ・ 国公立大学の合格人数を気にする人が多いが、自分が進みたいところに行くことが大切である。
- ・ 学校としてはそのことを念頭に置いて希望に添えるように指導している。半数程度は行きたいところに進学しているのではないかと考えている。しかしながら、入試制度のために志望を指定校に変更している生徒がいることも事実である。
- ・ 指定校は、易きに流れるところがあるので、そうならないような指導が必要である。
- ・ 早期に進路が決定した生徒に対する時間の使い方の指導も大切である。
- ・ 5分掌となったが、教員の仕事の中身は変わってないので、どのように適切な役割分担にしていくかが大切である。
- ・ クラブ活動はよく頑張っている。
- ・ 年度末の教員の人事異動も部活動に影響する。
- ・ 那賀高校は部活動を熱心に指導している。
- ・ 部活動を熱心に指導している学校は落ち着いている。

イ 来年度に向けて

- ・ 来年度は100周年記念式典もあるため、同窓会代表委員を加えたい。
- ・ 子供達にとって学校行事から身につける力は大きい。それゆえ多くのイベントを実施していくことが望ましい。各教科の授業で学校が身につけたい力を意識しながら普段から指導していくことも重要である。学校目標に直結した授業を行うことが大切である。
- ・ 本校はバランス良く指導し、地域のリーダーになるために、様々な場面で学校が目指す身につける力を意識して指導していく。
(スクールポリシーについて)
- ・ 外向きのグラデュエーションポリシーに具体性を持たせることは難しい。内部的な目標はさらに具体性を持たせておく必要がある。
- ・ 前回より現実的で良いものになっている。
- ・ 様々な教育活動を通じてバランス良く生徒を導いていくことが那賀高校として重要なことである。
- ・ 地域で貢献できるリーダーを育てる。
- ・ 来年度に向けてさらに考えていってください。
- ・ 保護者の一部に、文化祭の演劇について3年生の負担が大きいという声がある。本年度の文化祭の中止により、来年度から無理のないような展開をするため、展示・模擬店・演劇について検討していく必要がある。3年生の部活動のピークや受験などの

ことを考慮する必要もある。

- ・コロナ禍における文化祭の中止により到達点のモデルが無くなった今、行事のあり方を考えていくことも大切である。
- ・演劇の伝統を見ていないことが残念である。3年生が演劇をすることは那賀高校らしさでもあるが負担は大きい。2年生で演劇をすることを考えてはどうか。
- ・来年度に向けて生徒に考えさせて、生徒の意見も取り入れながら見直していくことも必要。

6 閉会
校長謝辞

- 4 資料
- (1) 令和3年度学校評価シート
 - (2) 和歌山県立那賀高等学校スクールポリシー

